

1. 問題と目的

- 匿名状況におけるネガティブ発言: SNSでの誹謗中傷, ネットいじめ
 - これまでの研究: WEBでの悪口や誹謗中傷などのネガティブ発言を抽出して分類する試み(石坂・山本, 2010; 松葉・柳井・河合・伊須, 2011)
- 「何をもちて悪口や誹謗中傷とするのか」があいまい
 - 生じる問題点: フィルタリングすべき悪質な発言が不明確, 法的に問題となる境界もあいまい
 - これまでの研究の問題点: 「発言によって受け手が傷つく度合い」についての根拠がない
- 目的: 「死ね」「生きてる価値ない」「死んでほしい」「氏ね」を用いて, 心理的ダメージを明らかにする

2. 方法

- 調査対象者: 東北地方の大学での心理学系授業の受講者101名
 - そのうち99名が分析対象者(男性84名, 女性15名, 年齢の平均値は19.95歳)
- 質問紙: 発言ごとに, 心理的ダメージを0~100で回答. 場面は2つ
 - 「死ね」「生きてる価値ない」「死んでほしい」「氏ね」+ フィラー

あなたは, ある大学の合同発表会に参加しています。あなたの発表が, 支離滅裂な内容で, しどろもどろな話し方であったため, 制限時間を大幅に超えてしまいました。そのため, 他の参加者の発表時間が削られてしまいました。

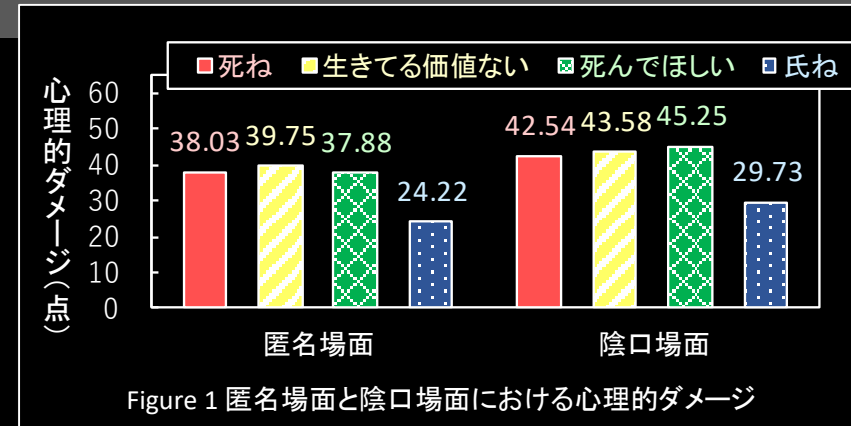
匿名場面

あなたには, いつも行動を共にしている同級生グループがあります。そのうちの1人が, あなたにスマートフォンの画面を見せてきました。そこには, 自分も利用しているSNSの自分以外のグループメンバーがメッセージのやり取りをしており, あなたについて言及していました。

陰口場面

3. 結果

- 心理的ダメージの平均値について, 場面(匿名, 陰口) × 発言(4種類)の2要因分散分析



- 交互作用 ($F(3, 784) = .07, p = .98$)
- 場面の主効果 ($F(1, 784) = 4.40, p = .04$) 有意 匿名場面 < 陰口場面
- 発言の主効果 ($F(3, 784) = 7.24, p < 0.001$) 有意
「死ね」「生きてる価値ない」「死んでほしい」 > 「氏ね」

4. 考察

- 2つの間接的表現に差あり 「生きてる価値ない」 > 「氏ね」
 - 「氏ね」は本気ではない本気度が低い「死ね」である
 - 心理的ダメージから考えると, 「氏ね」は強く規制されるべきでない表現
- 本研究における2つの場面以外への適用性は, 要検討

参考文献

- 石坂達也・山本和英 (2010). 2ちゃんねるを対象とした悪口表現の抽出 言語処理学会第16回年次大会発表論文集, 178-181.
- 松葉達明・柳井文人・河合敦夫・井須尚紀 (2011). 学校非公式サイトにおける有害情報検出を目的とした極性判定モデルに関する研究 言語処理学会第17回年次大会発表論文集, 388-391.